

自己点検・自己評価の概要

1. 教育目標

- (1) アクティブラーニングができる授業づくり(継続)
 - 協同学習技法の定着
 - シミュレーション教育の充実
- (2) 専門分野 専門分野 統合分野の講義進度計画の管理を徹底する。
各看護学の学習課題の集中化を避ける。
看護過程演習の見直し
 - ・シミュレーションの方法を検討・実施
- (3) 授業評価の定着・活用
授業評価の実施を基礎分野、専門基礎分野に拡大する。
授業評価の分析
- (4) 教員の資質向上を図る。
 - ラダーに基づく教員研修を計画・実施
 - 臨地実習施設との人事交流
- (5) 学習困難者の支援体制を強化する。
 - 専門基礎分野の課外授業を実施・評価
 - 専任教員による支援体制を定着させる。
 - ・キャリア支援チームの位置づけを明確にする。
 - ・入学前学修の定着・実施
- (6) 地域(病院等)と連携した看護基礎教育の実施
 - ・TA派遣施設の拡大
- (7) 放送大学との連携協力体制を創る
対象学生の学習支援
円滑な事務手続き

2. 財政体質の安定化

- (1) 毎年の収支を見極めた予算計画を立てる。
- (2) 財源確保への取り組み
 - 退学者、休学者の増加を抑える。
 - スクールカウンセラーの活用を工夫する。
 - 受験生の確保
 - ・広報活動の工夫(高校生を対象に模擬授業を実施)
 - ・高校の進路指導教諭に対する学校説明会の実施

3. 組織構造の改善

- (1) 効率的な学校運営
 - 学内組織の見直し

事務分掌の見直し

(2) 学内委員会活動、自己点検・自己評価委員会、教育課程編成委員会、学校関係者評価
各自の業務目標管理の関連性を明確にする。

(3) ワークライフバランスを実施(継続)

日常業務の見直し

効率的な会議運営

情報伝達の効率化

有給休暇の計画的取得の推進

3. 各評価指標の概要

指標 : 教育理念・目標

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2) 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
4) 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか。	4
5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

課題 : 本校における看護教育の特色をより鮮明にする。(継続)

18歳人口が年々減少していく中で、看護師を目指す若者を定員数確保することは、今後一層厳しくなることが予測される。看護師を目指す若者に選ばれる学校を目指して、専門学校としての本校の特色をより鮮明にしていくことが必要

教員の資質向上(継続)

授業評価を確実に実施し、組織的な教育方法の工夫・改善が必要である。

自己点検・自己評価の結果を踏まえた 効率的運営と教育課程編成委員会活動の活性化

・社会のニーズを踏まえた学校の将来構想および臨床現場との緊密な関係性の中で、今後の学校教育の在り方を検討していくことが必要。

保護者との連携を密にして教育理念等に係る効果的な周知の方法を検討する必要がある。

改善策 : 2019年度から運営会議において、2か月に1回程度のペースで学内における検討をスタートさせる。

看護教育協議会が作成した「キャリアラダー」に基づいて体系的な教員研修を計画実施する。

・授業評価を分析し可視化し、より効果的な教育方法を工夫する。FD活動一環で研修報告及び学内企画の教員研修を実施する。

自己点検・自己評価の結果を教職員が共有する。

・課題1の解決策と同様

効果的な周知方法の検討をする。

・後援会総会時に建学の理念及び教育目的の説明を行う。(5月)

指標：学校経営

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) 目的に沿った運営方針が策定されているか。	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか・有効に機能しているか。	4
4) 人事、給与に関する規程等は、整備されているか	4
5) 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4
6) 業界や地域社会等にコンプライアンス体制が整備されているか。	4
7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4

課題： 全教職員が学校経営に関わっているという認識を持つことが必要。

教育活動のPRを推進。

改善策： 湘央学園理事会への報告した「年度の事業計画」及び「行動目標の達成状況」の報告を教務会や職員会議で提示し、自身の業務に反映できるようにする。

- ・ 各自の業務計画及び委員会活動との連動性を図るように屋根瓦方式で指導助言を行う。
- 実習施設と看護基礎教育の在り方等を相互理解する場を設ける。
- ・ 非常勤講師とのコミュニケーションや学校の情報提供を図る。
- ・ 広報会議を復活させ、活動の幅を広げる。

指標：教育活動

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか。	4
2) 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4
3) 学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5) 関連分野の企業・関係施設など、業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか。	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）が体系的に位置づけられているか。	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか。	4
8) 職業教育などに対する外部関係者からの評価を受け入れているか。	4
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるのか。	4

課題： 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などについて

- ・マトリックスの完成と教育内容の精選を実施することができた。今後も学習内容を検証することが課題である。
- ・平成29年度により学修効果をあげるため各領域の看護過程の進捗を検討して平成30年度は、各領域の担当者が実習と講義の担当を担うことで計画した内容での実施できなかった。
教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保について
- ・実技科目の授業内容
技術テストの導入については検証を積み重ねていく必要がある。
- ・実習の内容
平成28年度から実施してきた卒業後1年目の卒業生(浦看カフェ)に実施したアンケート内容等を引き続き検討していく。
- ・卒業3年のラダーをふまえた看護技術到達については、引き続き検討課題と考える。
関連分野における実践的な職業教育(産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など)の体系的な位置づけについて
- ・TAによる授業の成果を研究としてまとめることは今後継続的に検討する。
授業評価の実施・評価体制について
- ・実習評価はルーブリック評価で体系化できたが、見直し等は継続検討する。
- ・授業科目に関しては導入に向けて引き続き検討する。
職業教育などに対する外部関係者からの評価について
- ・卒業生を受け入れている施設からの評価は、今後施設と調整し検討していく。

改善策： 理念を踏まえ引き続き教育内容の検討を継続的に行う。

- ・看護教育協議会主催の平成29年度・30年度の研修(協同学習)での学びを今後も教育方法へ取り入れて実践していく。
2019年度も各専門領域の科目内容や指導方法の現状と課題についての検討を行い、効果的な学修方法を実践していく。
- ・各領域の看護過程の2019年度講義進捗は、領域の担当者と計画通り実施できるように調整する。

指標：学修成果

評価項目	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1
1) 進学率や就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	4
3) 退学率の低減が図られているか	4
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4

課題： 休学者のほとんどが「メンタル面の問題」「学習への不安」を抱えている。

卒業生・在校生の社会的な活動及び評価と卒業後のキャリア形成への効果の把握について今後、検討を要する。卒業時の技術到達度を把握し、卒業後のキャリア形成と比較する必要がある。

退学理由が「進路変更」であるが、休学理由は「学習への不安」「単位未履修」などもあり、学習への支援を個別的に実施する必要がある。

改善策： スクールカウンセラーの配置を今年度から担当者を追加し、2回/月に変更する。

同窓会と連携し調査を実施する。

- ・卒業生の就業先での就業状況を把握し、看護基礎教育での課題を明確にしていく。技術到達度を把握する
- ・卒業後のキャリア形成の効果の把握については、アンケートなどを実施し継続的に検討していく。

キャリア教育の充実

- ・看護職としてキャリアを積むことの意義を指導するために、看護協会や認定看護師など講演会の計画する。

指標：学生支援

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、やや不適切... 2、不適切... 1
1) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
2) 学生の健康管理を担う組織体制はあるのか	4
3) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
4) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
5) 保護者と適切に連携をしているか	4
6) 卒業生への支援体制はあるか	4
7) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
8) 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
9) 基本的な生活習慣の確立のため取組が行われているか	4
10) 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障害のある生徒等への支援等）	4
11) 進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	4

課題： 社会人ニーズを踏まえた教育環境の整備について、把握が必要である。

病院や市町村奨学金貸与については、把握できていない。

改善策： 社会ニーズを踏まえた教育環境では、必要時対応する。

奨学金貸与と学生の実態を把握する。（学生が直接契約している病院等の奨学金の利用状況）

指標：教育環境

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) 施設・整備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか	4
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	4

課題： 施設整備について

- ・学生の荷物置き場として1階の倉庫にブルーシートを敷きクラスごとに使用しているが乱雑に置かれている状況である。
- ・国家試験対策期間中の1・2年生の視聴覚室・演習室の使用・移動の導線など、インフルエンザ対策をマニュアル化する必要がある。

環境整備について

- ・トイレ清掃に関し引継ぎの期間に清掃方法の引継ぎがうまくいかず清掃が行き届いていない状況がある。
- ・国家試験対策期間中、1年生2年生が3年生と接触しないよう対策をとったが、視聴覚室・演習室の利用や実習の発表の教室の確保、移動の際の導線や清掃を行うか否かなど混乱が生じた。
- ・定期的な清掃チェック方法。

改善策： 施設設備として2019年度は棚の設置を予定している。

- ・学内にて検討しマニュアルを作成していく。
2019年度は、トイレの清掃に関しクラス固定を検討する。
- ・学内にて検討しマニュアルを作成していく。
- ・教育環境委員会を中心に月1回清掃チェックを行う。

指標：学生の受け入れ募集

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) 学生募集活動は適正に行われているか。	4
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4
3) 学納金は妥当なものとなっているか。	4

課題： 入学時アンケート調査結果と現状の学生募集活動とを照らし合わせた結果、本校が行っている活動は、希望者の意向に沿って適切に進められているが、社会経済の上向きに伴い求人倍率の上昇などもあり、既卒者の受験者数が減少傾向にある。それを踏まえて高校生の受験者数を増やすための工夫が必要である。
また、入学生が本校を志望した理由を踏まえ今後更に教育内容の質を高め教育環境の整備充実に努めていく必要がある。

改善策： 入学時アンケート調査結果を踏まえ、進路選択の指標として重要な学校案内パンフレット、学校ホームページ、オープンキャンパスを充実させ入学希望者が必要な情報を詳細に伝えていく為にも、入学時アンケート調査を継続し、回答項目に適宜、修正・追加を加え充実させていく。

指標：財務

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3) 財務について会計検査が適切に行われているか。	4
4) 財務情報公開の体制整備はできているか。	4

課題： 予算執行の無駄をゼロに近づける。

改善策： 適切な予算執行の確認を行うために毎月執行状況を確認する。

指標：法令等の遵守

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	3
2) 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
4) 自己評価結果を公表しているか。	4

課題： 法令遵守の徹底。

個人情報の取扱いについての学生指導を徹底する。

対応策： 指導調査に係る改善事項に取り組む。

- ・法令を踏まえた学校の管理運営を全教職員が意識して活動する。
SNSに関する特別講義は継続する。
- ・インシデントに係るケース発生時にはその都度、丁寧に説明を繰り返す。

指標：社会貢献・地域貢献

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4
2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
3) 地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

課題： 学校として地域貢献するための制度は整ってきたが、学生の自発的なボランティア参加は減少している。

改善策： 学生が一度はボランティアを体験できるように教育課程の中に地域活動を設定している。本年度は2種類の地域活動から選択して参加したが、2019年度は活動の種類を増やし、学生が興味を喚起し、2回目以降の自主的な参加につなげる。

成学生へボランティア活動の実際を周知するために、活動報告を掲示する。既存の活動報告の書式を読む
 学生が興味をもてるような内容に変更する。依頼元のプライバシーに配慮し写真を撮り、活動報告書に添付
 し、活動の様子が伝わりやすくする。

指標Ⅺ：国際交流

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	4
2) 学内での適切な体制が整備されているか。	4

課題： 国際看護の授業を通しての国際交流は5年目を迎え、関係機関へ認知されるようになってきた。今後はこの
 体制を持続して、成熟させていく。

改善策： 留学生への受け入れについては、法的規制を順守することが困難な状況があり、現時点では時期尚早と
 考える。

指標Ⅻ：特別活動等

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1
1) クラブ活動特別活動を奨励、支援しているか。	4
2) 保護者会等と連携した活動を推進しているか。	4

課題： 手話活動の拠点を学内だけではなく地域の聴覚障害のある方とコミュニケーションを積極的に取る場を設け
 る必要がある。

クラブ全員の参加は、時間割の都合や放課後の技術演習等があり毎週の学習会参加が困難な時期がある。

改善策： 地域に学生の活動を理解し、受入れる場があるか情報を取る。

演習や課題の多い時期を除いた緩やかな活動を行い、継続する。

- ・学校行事に日頃の学習を披露し活動の場を広げる。